

2021年6月29日
株式会社ロイヤリティ マーケティング

Pontaリサーチ会員3,000人に聞いた

第47回 Ponta消費意識調査 2021年6月発表

夏のボーナスの使い道、8年連続「貯金・預金」が1位 「投資信託」が初の上位10位にランクイン

～ 支給金額の半分以上を貯金・預金したい人の割合は約6割 ～

共通ポイントサービス「Ponta（ポンタ）」を運営する株式会社ロイヤリティ マーケティング（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：長谷川 剛、以下「LM」）は、消費者の意識とポイントの利用意向を把握するため、「第47回 Ponta消費意識調査」を「Pontaリサーチ」にて2021年5月28日（金）～ 5月29日（土）に実施いたしましたので、ご報告いたします。

■アドホック：夏のボーナスの使い道

トピックス

- ・ 「夏のボーナス」の使い道（P.2）
 - － 8年連続で「貯金・預金」が1位。「投資信託」が初の上位10位に入る
- ・ 夏のボーナスの「貯金・預金」の割合（P.3）
 - － 夏のボーナスの支給金額の半分以上を「貯金・預金」したい人は、60.8%
- ・ 「夏のボーナス」の支給額（P.3）
 - － 「20万円未満」の割合が、コロナ前の2019年調査から5.1ポイント増加し、21.3%
- ・ 「夏のボーナス」の貯金・預金の用途（P.4）
 - － 「貯金・預金」の用途を「決めている」は40.8%。コロナ前の2019年調査と差は見られず
- ・ 「夏のボーナス」の貯金・預金の用途詳細（P.4）
 - － 「貯金・預金」の用途、「収入の変化への備え」が35.9%

＜節約志向＞

- ・ 消費者の節約志向（P.5）
 - － 「節約したい」派は62.0%となり、前回調査より4.4ポイント減少

＜ポイントサービスの利用意向＞

- ・ ポイントの活用意識と節約志向（P.6）
 - － 「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が45.0%と最も高く「節約したい」派では、「いまつかいたい」が44.9%と最も高い
 - 「節約したい」派に高いポイント活用意識が伺える

＜調査概要＞

調査方法： インターネット調査

調査期間： 2021年5月28日（金）～ 5月29日（土）

パネル： 「Pontaリサーチ」会員（Ponta会員で「Pontaリサーチ」への会員登録をして頂いている方）

回答者数： 3,000人 男性、女性×年代別（20・30・40・50・60代以上）の各10セルで300サンプル

※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。

LMは、「Ponta」の「便利・おトク・楽しい」世界が、いつでもどこでも広がる生活密着型サービスを提供しています。

<消費者意識>

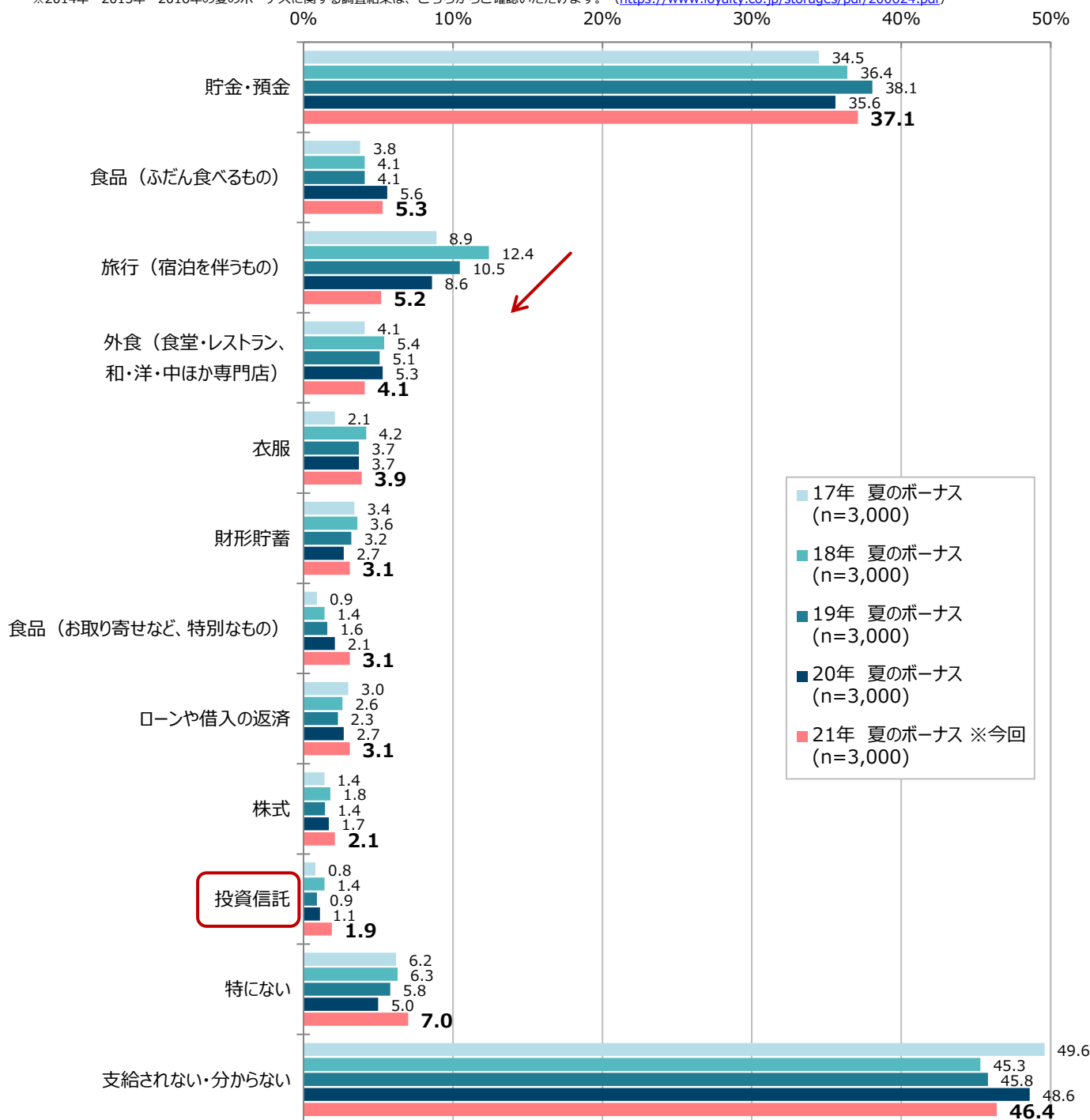
「夏のボーナス」の使い道

アドホック

… 8年連続で「貯金・預金」が1位。「投資信託」が初の上位10位に入る

- 夏のボーナスの使い道は8年連続で、1位「貯金・預金」（37.1%）となった。次いで2位「食品（ふだん食べるもの）」は5.3%。3位「旅行（宿泊を伴うもの）」は過去最も低い5.2%となった。
- また10位「投資信託」は、2014年に調査を開始して以来初めて、上位10位に入った。
- 「支給されない・分からない」は46.4%となった。

■今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。（3つまで）

※今回調査で上位10項目を抜粋（「特になし」「支給されない・分からない」を除く） ※回答が同数で順位に差がある場合は、小数点第2位以下に差があるため
※2014年・2015年・2016年の夏のボーナスに関する調査結果は、こちらからご確認ください。（<https://www.loyalty.co.jp/storages/pdf/200624.pdf>）


<消費者意識>

夏のボーナスの「貯金・預金」の割合

アドホック

…夏のボーナスの支給金額の半分以上を「貯金・預金」したい人は、**60.8%**

- 夏のボーナスの支給金額のうち、貯金・預金したい額の割合が「75%以上」という回答が33.0%、「50%～75%未満」が27.8%となった。合わせると、支給金額のうち半分以上を貯金・預金したい人は60.8%となり、2019年、2020年、2021年と少しずつ割合が増えている。

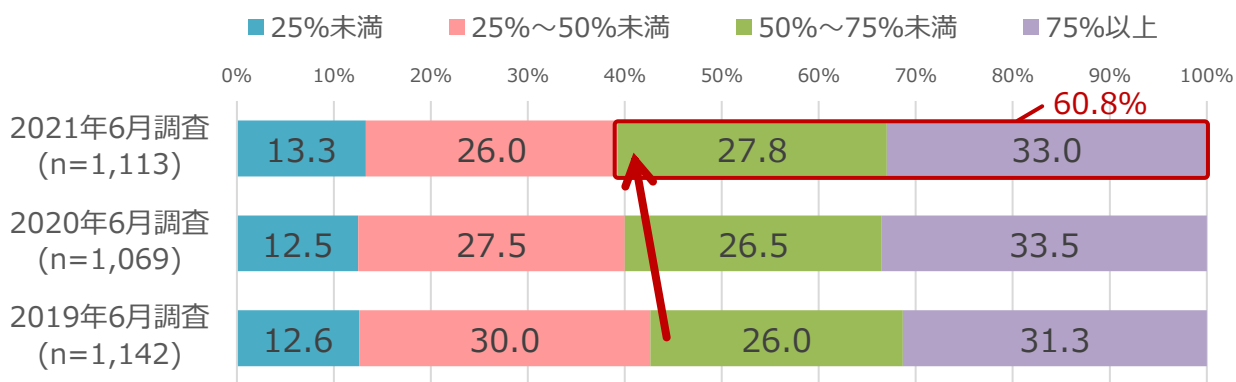
「夏のボーナス」の支給額

…「**20万円未満**」の割合が、コロナ前の2019年調査から**5.1ポイント増加し、21.3%**

- 夏のボーナスの世帯あたりの支給額(想定額を含む)は「20万円～40万円未満」が24.3%と最多。「20万円未満」はコロナ前の2019年6月調査と比べ5.1ポイント増加し、21.3%となった。

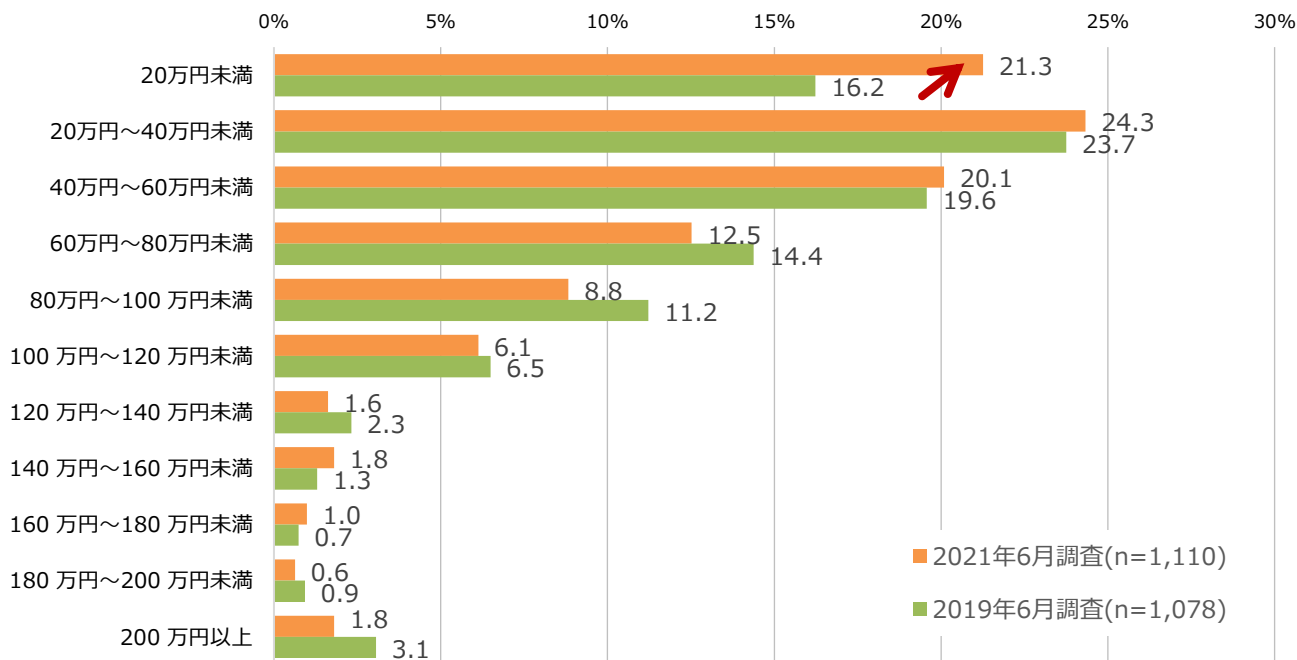
■支給される金額のうち、どの程度貯金・預金したいか、お答えください。(単一回答)

今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のみ回答。



■あなたもしくは家族にボーナスが支給される場合、今年の夏のボーナスの金額(世帯あたり)を教えてください。これから支給される場合は、想定される金額を教えてください。(単一回答)

「今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。」の設問に対し、「支給されない・分からない」と回答した方を除く。
※本設問で金額を回答した方を抜粋。(「分からない・答えたくない」と回答した n=499 を除く)



<消費者意識>

「夏のボーナス」の貯金・預金の用途

アドホック

…「貯金・預金」の用途を「決めている」は40.8%。コロナ前の2019年調査と差は見られず

- 夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」と答えた方のうち、用途を「決めている」のは40.8%。コロナ前の2019年6月調査の40.9%と比べて、大きな差は見られなかった。

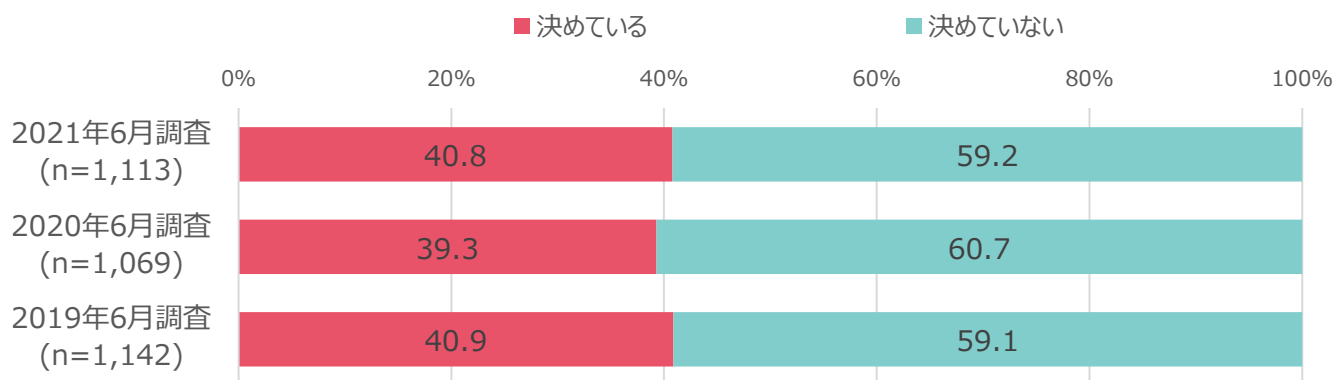
「夏のボーナス」の貯金・預金の用途詳細

…「貯金・預金」の用途、「収入の変化への備え」が35.9%

- 「老後の生活への備え」52.9%、「将来の消費への備え」46.9%となった。コロナ前の2019年6月調査からコロナ禍となった2020年6月調査で、最も差が大きかった「収入の変化への備え」は、本調査で35.9%となった。

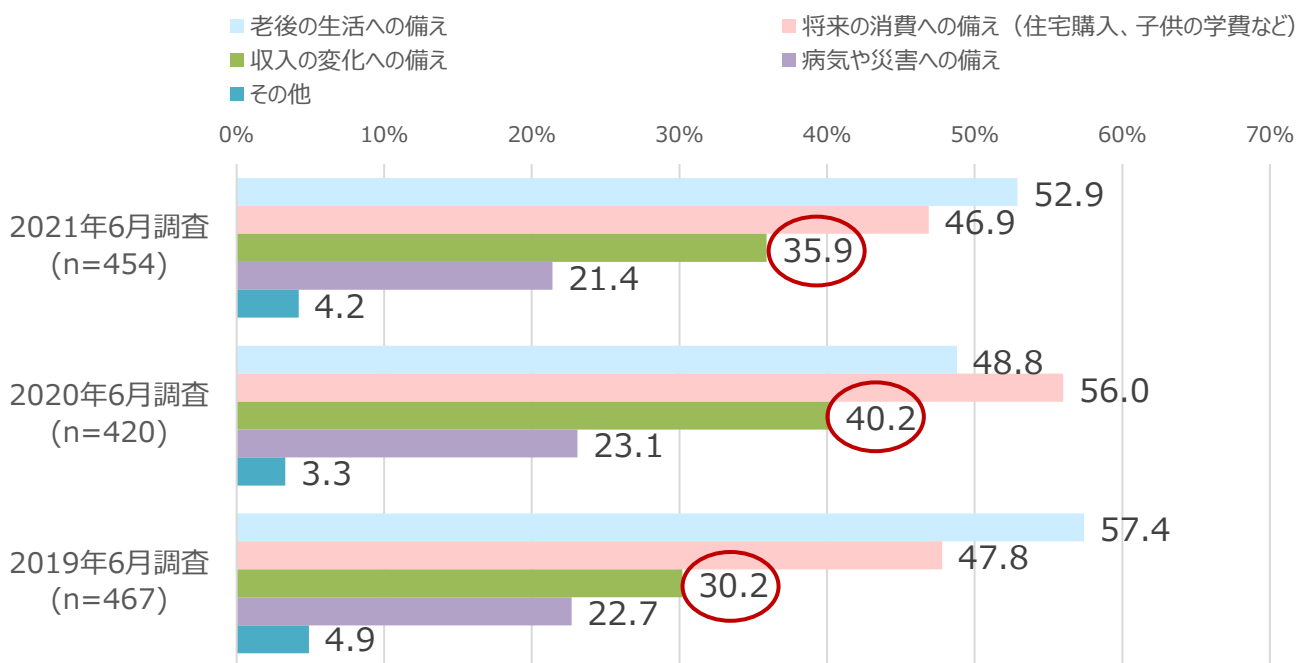
■「貯金・預金」の用途は決めていますか。（ひとつだけ）

今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のみ回答。



■「貯金・預金」の用途を教えてください。（いくつでも）

今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のうち、用途を決めている方のみ回答。



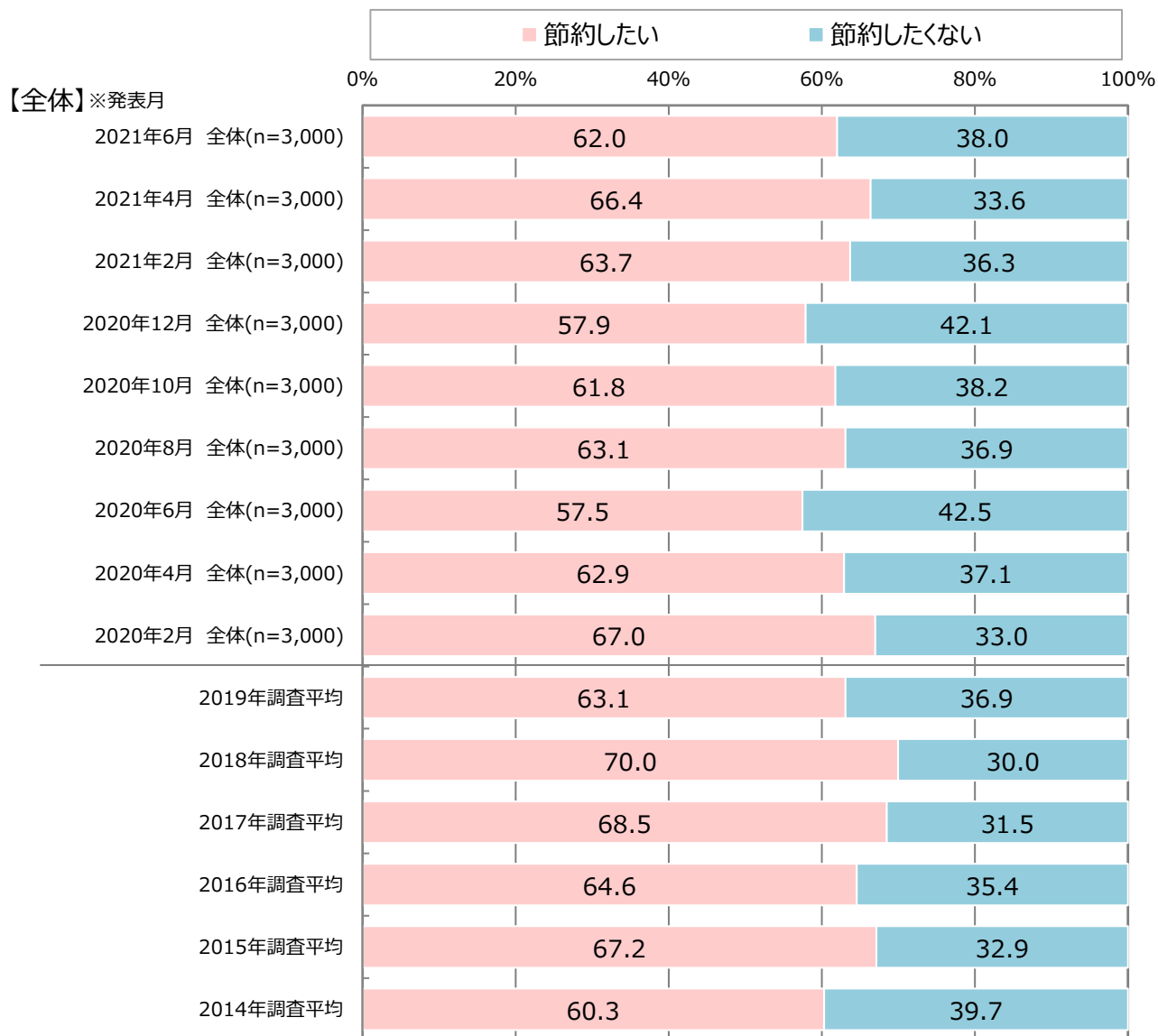
<節約志向>

消費者の節約志向

…「節約したい」派は62.0%となり、前回調査より4.4ポイント減少

- ・ 今月の家計の支出を節約したい金額に1円以上を回答した「節約したい」派は、62.0%となった。

■ 今月の家計の支出を節約したい割合



- ・ 節約したい…節約したい金額が1円以上
- ・ 節約したくない…節約したい金額が0円

【参考】<設問> あなたは、今月の家計の支出をどのくらい節約したいですか。（半角数字で入力）
※とくに節約したいと思わない人は「0」と入力してください。

※2014年調査平均は4～12月の偶数月5回分、その他の年ごとの調査平均は2月～12月の偶数月6回分の平均です。
各調査n=3,000、2014年4月調査のみn=3,013です。

<ポイントサービスの利用意向>

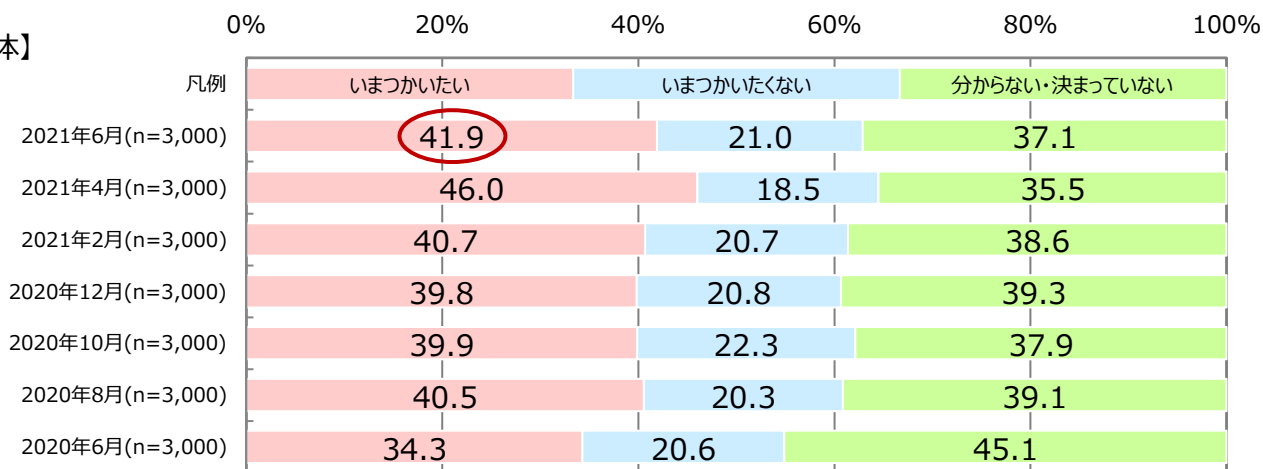
ポイントの活用意識と節約志向

…「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が45.0%と最も高く
「節約したい」派では、「いまつかいたい」が44.9%と最も高い
「節約したい」派に高いポイント活用意識が伺える

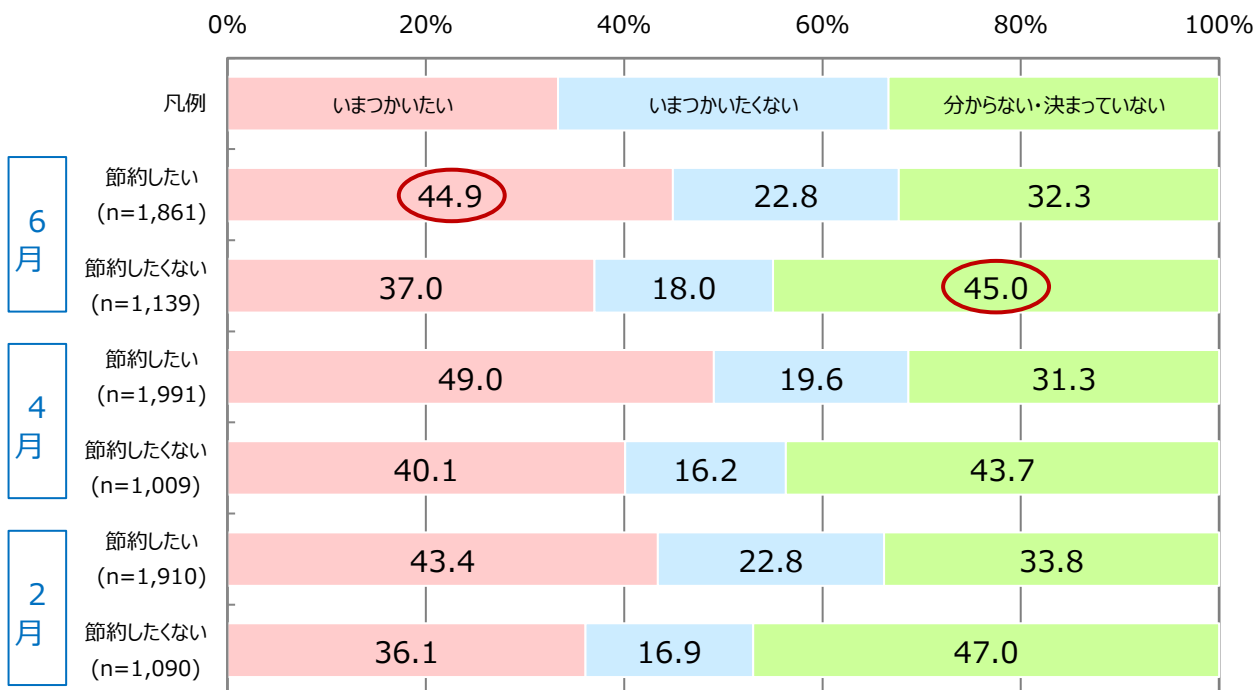
- ・いまPontaポイントをつかいたいかにについて、全体で「いまつかいたい」が最も高く、41.9%となった。

■あなたはいまPontaポイントをつかいたいですか。（単一回答）

【全体】



【節約志向の有無別】（2021年2月～2021年6月調査）



【参考】「Pontaリサーチ」コンサルティング・リサーチチーム 見解**一 夏のボーナスの使い道、8年連続で「貯金・預金」が1位。「投資信託」が初の上位10位に入る
「旅行（宿泊を伴うもの）」は過去最も低い5.2%、「旅行（日帰り）」は調査開始後、初の10位圏外に**

Ponta消費意識調査では、2014年6月調査より毎年「夏のボーナス」の使い道について調べており、今年で8年目の調査となりました。

今年の夏のボーナスの使い道の**1位は「貯金・預金」で37.1%**でした。昨年の2020年6月調査と比べると、1.5ポイント増えています。8年連続の1位となり、引き続き高い貯蓄意識がうかがえます。また、**10位は「投資信託」で1.9%となり、8年目の調査にして初めて上位10位にランクイン**しました。この他、6位「財形貯蓄」（0.4ポイント増）、8位「ローンや借入の返済」（0.4ポイント増）、9位「株式」（0.4ポイント増）と、金融関連の使い道が昨年調査と比較して増加しました。

旅行関連では「旅行（宿泊を伴うもの）」は昨年調査から3.4ポイント減少し、過去最も低い5.2%でした。さらに昨年8位であった「旅行（日帰り）」は調査開始後、初の10位圏外となりました。

食関連では、自宅で食べる「食品（ふだん食べるもの）」「食品（お取り寄せなど、特別なもの）」が、昨年調査と比べてほぼ同じ程度または増加し、一方で「外食（食堂・レストラン、和・洋・中ほか専門店）」が減少しています。

**一 夏のボーナスの支給金額の半分以上を、「貯金・預金」したい人は60.8%
「貯金・預金」の用途を“決めていない”は59.2%**

夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方に、ボーナスの支給金額のうち、どれくらい貯金・預金したいかについて聴取したところ、「75%以上」が33.0%、「50%～75%未満」が27.8%となり、合わせて60.8%となりました。支給金額の半分以上を「貯金・預金」したい人の割合は2019年6月調査（57.3%）、2020年6月調査（60.0%）と連続して少しずつ増えています。

「貯金・預金」を選んだ方に、ためたお金の用途を決めているか聞いたところ、「決めていない」は59.2%と半数を超えました。生活防衛意識から、用途は決めていなくとも、まずはためておこうという方が多いのかもしれませんが。また、「貯金・預金」の用途を「決めていない」40.8%の方に、その用途を聴取したところ「老後の生活への備え」（52.9%）、「将来の消費への備え」（46.9%）に続いて、「収入の変化への備え」（35.9%）となりました。「収入の変化への備え」は、2019年6月調査（30.2%）から、2020年6月調査（40.2%）で10.0ポイント増加しました。今回は、35.9%に減少しましたが、コロナ前の2019年6月調査と比べると高い割合です。

今回の調査では夏のボーナスの使い道として、**旅行や外食に関する項目の割合が、昨年の調査と比べて減少**したことが分かり、新型コロナウイルス感染拡大の影響で人々の消費行動が変化していることがより一層うかがえる結果となりました。また、1位の「貯金・預金」について、ボーナスの支給金額のうち半分以上を貯金・預金したい人の割合が2019年調査から少しずつ増加しており、引き続き高い貯蓄意識がうかがえます。また、「お金をためる」だけではなく、「株式」「投資信託」といった**“お金を運用する”ことにも関心をもっている様子**がうかがえました。

<「Pontaリサーチ」について>

PontaリサーチはLMが提供するリサーチサービスで、Ponta会員のうち「Pontaリサーチ」にご登録いただいているPontaリサーチ会員を対象に、自主調査や企業および団体などから依頼を受けたアンケートをご案内しています。Pontaリサーチ会員の皆様は、アンケートにご協力いただくことでPontaポイントをためることができます。「Pontaリサーチ」サイトURL：<https://www.loyalty.co.jp/ponta-research/>

<引用・転載の際のクレジット表記のお願い>

調査結果引用・転載の際は、“「Pontaリサーチ」調べ”とクレジットを記載していただけますようお願い申し上げます。